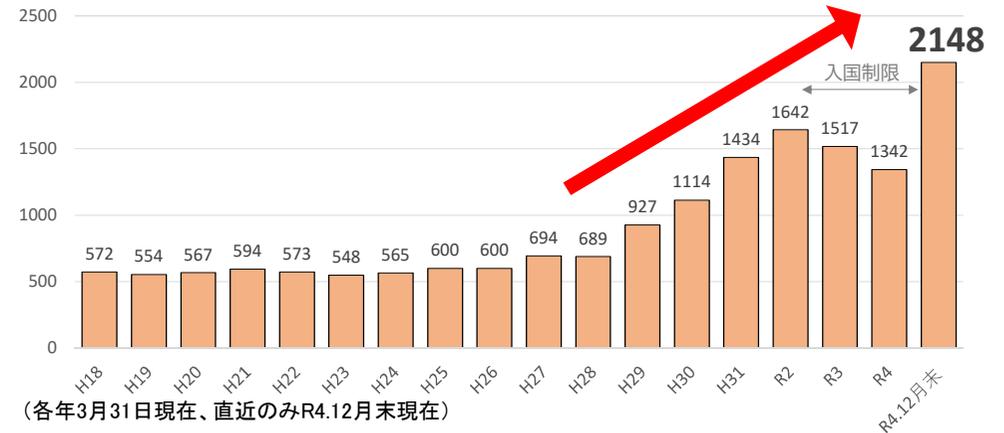


中津市の外国人居住者の状況

【中津市の外国人人口推移】

市内の外国人人口は年々増加。コロナ禍での入国制限により一時的に減少したが、制限解除後はまた増加に転じている。直近5年間で倍増しており、令和4年12月末現在2,148人。今後も増加が見込まれる。



医療、福祉、教育、雇用等の各分野において外国人にも配慮した対応が必要に

在留資格別内訳 (R4.12.31時点)

| 在留資格 | 男 | 女 | 計 |
|---------------------------|-------|-----|-------|
| 技能実習 (技能実習1~3号) | 467 | 172 | 639 |
| 特定技能 (特定技能1号) | 36 | 23 | 59 |
| 特定活動 (本国情勢による緊急避難措置など) | 550 | 161 | 711 |
| ビジネス等 (技術・人文知識・国際業務) | 123 | 44 | 167 |
| その他 (永住者・日本人の配偶者など) | 250 | 322 | 572 |
| 合計 | 1,426 | 722 | 2,148 |

年齢別内訳 (R4.12.31時点)

| 年齢区分 | 人数 |
|--------|-------|
| 0~9歳 | 54 |
| 10~19歳 | 46 |
| 20~29歳 | 1,180 |
| 30~39歳 | 531 |
| 40~49歳 | 134 |
| 50~59歳 | 67 |
| 60~69歳 | 63 |
| 70~79歳 | 53 |
| 80歳~ | 20 |

国籍別内訳 (R4.12.31時点)

| 国籍別 | 男 | 女 | 計 | % |
|--------|-------|-----|-------|-------|
| ミャンマー | 453 | 141 | 594 | 27.7 |
| ベトナム | 254 | 183 | 437 | 20.3 |
| インドネシア | 317 | 55 | 372 | 17.3 |
| 韓国 | 80 | 92 | 172 | 8.0 |
| フィリピン | 38 | 111 | 149 | 6.9 |
| 中国 | 44 | 64 | 108 | 5.0 |
| ネパール | 26 | 7 | 33 | 1.5 |
| ブラジル | 15 | 6 | 21 | 1.0 |
| 朝鮮 | 15 | 6 | 21 | 1.0 |
| その他 | 184 | 57 | 241 | 11.2 |
| 計 | 1,426 | 722 | 2,148 | 100.0 |

県下市町村の状況 (R4.6.30時点)

| | 外国人 | 比率 |
|-------|--------|------|
| 大分市 | 3,687 | 0.8% |
| 別府市 | 3,956 | 3.5% |
| 中津市 | 1,682 | 2.0% |
| 日田市 | 474 | 0.8% |
| 佐伯市 | 587 | 0.9% |
| 臼杵市 | 184 | 0.5% |
| 津久見市 | 44 | 0.3% |
| 竹田市 | 250 | 1.3% |
| 豊後高田市 | 710 | 3.2% |
| 杵築市 | 171 | 0.6% |
| 宇佐市 | 815 | 1.6% |
| 豊後大野市 | 340 | 1.0% |
| 由布市 | 414 | 1.3% |
| 国東市 | 333 | 1.3% |
| 姫島村 | 2 | 0.1% |
| 日出町 | 167 | 0.6% |
| 九重町 | 125 | 1.5% |
| 玖珠町 | 104 | 0.8% |
| 大分県全体 | 14,045 | 1.3% |

外国人居住者向けの支援

- やさしい日本語で書いた「中津市で暮らす外国人のための本」
- ごみ・資源カレンダーの多言語化
- 日本語教室「きらきら」(技能実習生などが対象)
- 日本語教室「あい♡ことば」(外国人親子が対象)

今後、予想されること...

- 最近ではアジアだけでなく、アフリカなどからの入国も増加しており、さらに多国籍化する可能性
- 技能実習は単身入国だが、家族も在留資格が得られるようになると配偶者や子どもの入国も増加する可能性

外国人児童・生徒の教育について

日本語指導を実施した児童生徒数

| | フィリピン | 中国 | イギリス | ブラジル | パキスタン | アフガニスタン | コンゴ | イエメン | コロンビア | ボリビア | 合計 |
|----|-------|----|------|------|-------|---------|-----|------|-------|------|----|
| R1 | 10 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| R2 | 4 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| R3 | 5 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 9 |
| R4 | 6 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 15 |

中津市において日本語指導が必要な児童生徒は年々増加傾向にある。令和元年においてフィリピン児童生徒が7割弱であり、きょうだい児も多かった。令和2年からのコロナ禍の影響もあり、対象児童生徒数が減ったが、その後徐々に増加、母語の多様化もみられる。保護者の就労状況により、頻繁に転校を繰り返す例もあり、そのたびに、生活面、経済面の支援を必要とすることも多い。

(施策の動向)

日本語教育の推進に関する法律 令和元年6月28日公布・施行

【第12条】 国は、外国人等である幼児、児童、生徒等が生活に必要な日本語教育の充実を図るため、これらの指導等の充実を可能とする教員等（教員及び、学校において必要な支援を行う者をいう。）の配置に係る制度の整備、教員等の要請及び研修の充実、就学の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

学習指導要領 総則 平成28年3月告示

第4 2（8）海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。

日本語指導を受けるまでの流れ

市教委において児童生徒の受け入れ
日本語の能力、生活・学習状況・適応状況等の把握

日本語については特別の配慮が
必要ない児童生徒
⇒所属校へ情報提供。

日本語指導が必要である児童生徒⇒日本語指導員を配置

①日本語で日常会話が十分にできない
場合

②日常会話ができても、学年相当の学習言語が不足
し学習活動への取組に支障が生じている場合

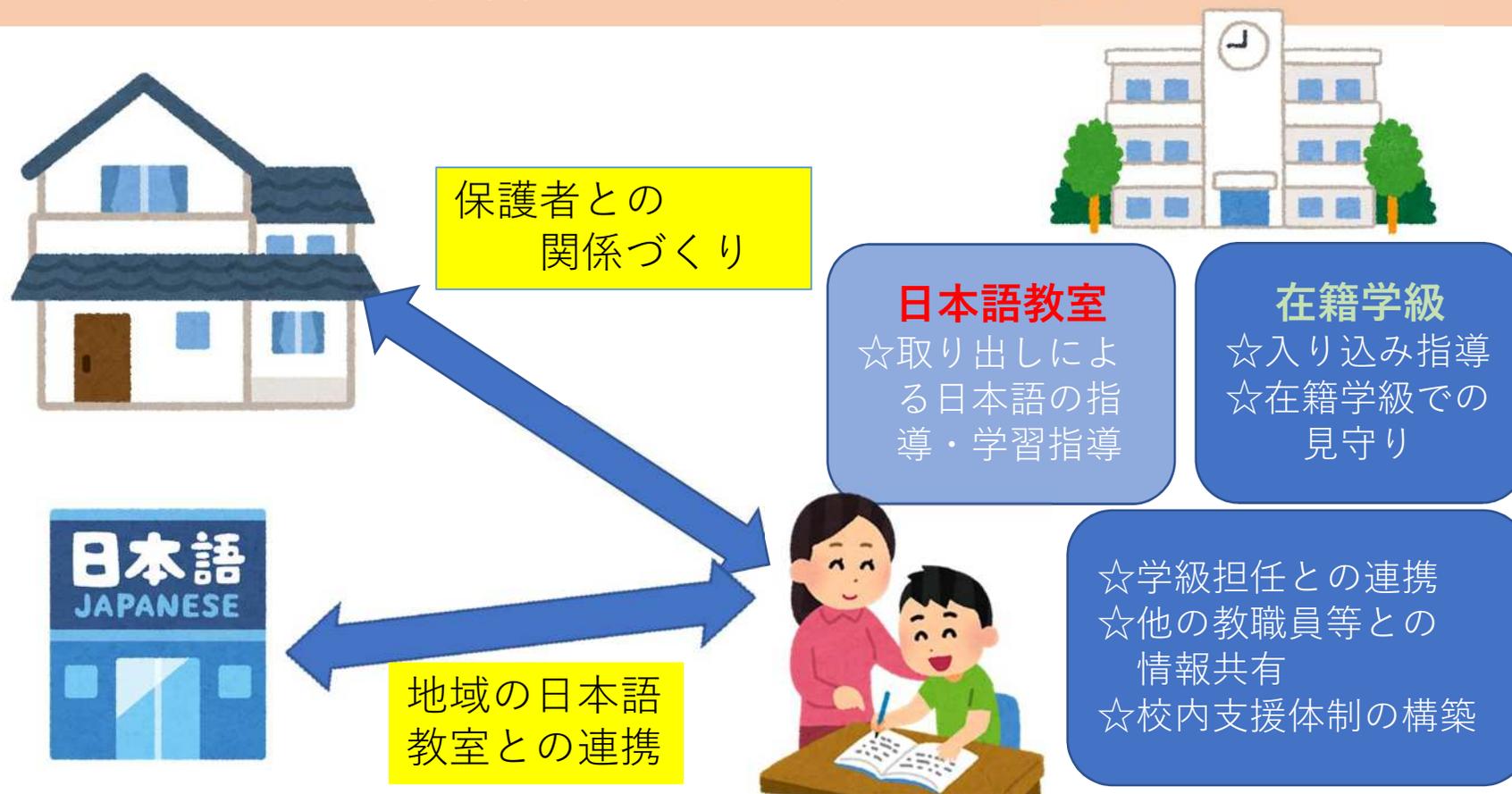
日本語指導員による「取り出し」日本語指導
中津市においては週4～5日、1日2時間を基本
に、国語、算数（数学）の取り出し指導を行っている。

日本語指導員による「入り込み」指導
国語、算数（数学）以外の授業については在籍学
級において通常の教育課程により指導を行うため
「入り込み」指導による支援や担任・教科担当等授
業者による配慮を行う。

日本語指導員による「入り込み」指導
在籍学級において通常の教育課程により指
導を行うため日本語指導員による「入り込
み」指導による支援や担任・教科担当等授業
者による配慮を行う。
放課後等を利用し、個別に学習支援を実施
することもある。



日本語指導員の役割



現在、中津市では対象児童10人、所属校6校に対し複数の日本語指導員で指導にあたっている。日本語指導のみでなく、それぞれが創意工夫しながら当該児童生徒との信頼関係を築き、家庭や他機関との連携を行っている。

今後、日本語指導を必要とする児童生徒の増加、多様化を考えたとき、日本語指導に携わる人員増はもとより、学校における様々な支援課題に対応する人員と環境整備が重要。また、行政として外国人の生活支援、日本語学習の拡充が必須である。

ICT活用教育の現状

GIGAスクール
構想

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。これまでの教育実践と最先端のICTの融合を図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

(1)中津市が目指すICTを活用した学びの姿

(1)ICTを活用した授業の日常化

- iPadを積極的に活用する(1日2~3回以上)
- 文具・教具として使用する
- 効果的な活用方法を探る

(2)個に応じた学び、協働的な学びの実現

- ICTを活用した言語能力の育成
- 各自の興味・関心を高める調べ学習
- 考えや意見の共有と、深い学びにつながる協働学習

(3)オンラインを活用した学びの保障と充実

- 緊急時及び長期欠席児童生徒に対しての学びの保障(学習支援アプリやオンライン授業等)
- 遠隔会議システムを利用した多様な人とのつながり

(2)中津市の現状

《環境整備》

- (個人) ・児童生徒1人1台のiPad(キーボード付きカバー) ・授業者1人1台のiPad、養護教諭1人1台のiPad(教室等) ・大型提示装置(プロジェクター)を各教室及び特別教室へ配置 小学校は普通教室にTVモニター有り
- ・無線アクセスポイントを各教室、特別教室及び体育館に設置 ・充電保管庫を各教室に配置
- ・通信ネットワークの高速化 ・フィルタリングソフトの導入 ・Webカメラ(学習支援アプリ等)
- ・授業支援アプリ【ロイロノート】 ・その他のアプリ【iPad標準アプリ等】
- ・AI型ドリル【eライブラリ】【English 4 Skills(EdTech導入補助金R4年度まで)】
- ・MEXCBT(メクビット)コンピュータでのテスト※文科省CBT(Computer Based Testing)システム
- ・学習者用デジタル教科書、指導者用デジタル教科書(教科による)

《活用状況》

- 大分県・全国を大きく上回る利用率
- ・教職員…教員がICTを活用した割合 ほぼ毎日 小85.7%(県51%)中90%(県59%)
 - ・児童・生徒…児童生徒がICTを活用した割合 ほぼ毎日 小100%(県77%)中90%(県82%)
- (大分県の調査より<令和3年度末>)
- ・今までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。
 - ・授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使ったか。
 - ・学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使ったか。
 - ・自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使ったか。
- どの項目も、週3回以上活用した割合が全国比+10ポイント以上
(全国学力学習状況調査より<令和4年4月>)



(3)年次推進計画

情報化推進委員と校内研究担当者が連携し、組織的かつ系統的にICT活用教育を推進する

STEP1

使って慣れる段階
「すぐに」「だれでも」「どの教科でも」

STEP2

教員が効果的に活用する段階
教科の学びを深める 教科の本質に迫る

STEP3

児童・生徒も自在に活用する段階
教科の学びをつなぎ社会課題の解決をめざす

令和2年度

- 各学級でiPadを1日1回から2回程度使用する
- 環境の整備
 - ・1人1台iPad・キーボード付カバー(小3~中3)
 - ・iPad用タッチペン、普通教室用大型掲示装置等

令和3年度

- 各学級でiPadを活用した授業を1日2~3回程度実施
- iPadを活用した授業事例・単元計画の共有(education等で共有)
- 教職員のスキルアップ研修(校内3回以上)の実施
- ICT活用計画系統表を作成
- 情報モラル教育の推進

令和4年度

- 児童生徒がiPadを活用した授業を1日2~3回程度実施
- 小学校高学年及び中学校の全学年で表現活動にiPadを活用
- iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有
- 教職員のスキルアップ研修(校内3回以上)の実施
- 持ち帰り学習を週に1回以上実施
- 情報モラル教育の推進
- 情報活用能力育成のための単元配列表の作成(ICT活用)

令和5年度(予定)

- 教科の特質や学習内容に応じて積極的かつ効果的にiPadを活用
- 学校の壁を越えた学習の推進
- iPadを活用した授業事例・単元計画等の共有(GIGA紹介シート等)
- 教職員のスキルアップ研修(校内3回以上)の実施
- 端末の毎日の持ち帰りを実施
- 情報モラル教育の推進
- 情報活用能力育成のための単元配列表の修正

中津市ICT活用教育推進校

※iPadを活用した主体的に学び、考えを深める授業の推進 (令和3年度、4年度は小学校1校、中学校1校で授業研究会を実施) (令和5年度以降は推進校を変更予定)

中津市ICT活用教育検討委員会

学校長若若干名 小学校教諭2名 中学校教諭2名 中津市教育委員会担当指導主事

中津市ICT活用教育推進委員会

各学校推進委員 中津市教育委員会担当指導主事

一斉学習におけるICT活用

◇教材等の提示場面

提示内容を視覚的に分かりやすく伝えることが可能



◇作業方法や実演の映像等の提示

学習活動を焦点化したり、学習課題への理解を深めることが可能



協働学習におけるICT活用

◇発表や話し合い

考えを整理して伝えあったり、表現や考えを記録・共有し見直しながら話し合ったりすることで多様な見方、考え方に触れることが可能



◇学校の壁を越えた学習

インターネットを活用し他校の子どもたちや地域の人々、専門家の方との交流を通して、多様な見方や考え方に触れることが可能



◇協働での意見整理

互いの考えを視覚的に共有することにより、意見交流が活発になったり、グループ内の議論を深めたりすることが可能



個別学習におけるICT活用

◇個に応じた学習

習熟の程度に応じて各自のペースで学習を進めることが可能



◇思考を深める学習

デジタルコンテンツや授業支援アプリ等の利用により考えを深めることが可能



◇家庭学習

◇調査活動

写真や動画の記録による細かな観察や、インターネット等による情報の収集が可能



◇表現・制作活動

アプリ等の活用により技能の習得や表現技法の向上、作品を通じた意見交流等が可能



オンラインを活用した学習の広がり

- ・中学生生徒代表者意見交換会(SOEM)の開催(中津市内の中学校生徒会同士の交流)
- ・中学校でのオンライン職場体験
- ・オンライン英会話教室(中学生対象)
- ・オンライン英検塾(学びのススメ英検塾)

健康面への配慮

各学校へ「目を守る30-30-30のすすめ」を配付。教室等に掲示することで、職員及び児童生徒への啓発を図る。



iPadスキルアップ研修

○目的

iPadの基本操作や基本アプリの操作と活用方法について、説明による操作演習を通して、理解を深める。

○年間5回、希望者、オンライン中心



学習支援アプリ研修

○目的

「eライブラリ」の基本操作や活用方法、「ロイノートスクール」の実践的活用方法を学び、授業等での活用技能向上を図る。

○活用研修は集合で年間1回、基本研修は学校ごとの希望制でオンライン



ICTを活用した授業改革リーダー育成研修(イノベーター研修)

○目的

これからの時代に求められる教師像や、授業のあり方、効果的なICTの利活用等について講義・演習・協議を通して学ぶとともに、情報活用能力育成に向けて、タブレット端末等のICT機器を活用した「主体的に学び、考えを深める授業(みんな活躍授業)」を探究する授業改革リーダーを育成する。



ICT活用教育の課題

- ①教職員のICTを活用した授業力の向上(授業内容・操作技術)
- ②端末(iPad等)の整備・保守(アプリケーションを含む)
- ③インターネット環境の整備(家庭・学校)※デジタル教科書使用時の安定した接続状態の確保
- ④CBT(コンピュータを使用したテスト)への対応・AIドリルを使用した個別最適な学びの具現化
- ⑤ICT活用による働き方改革の推進(新たな校務支援ソフトの導入等)

ICT活用教育を支える外部人材



ICT支援員

- ・授業支援(授業計画等)
- ・ICT機器の準備・操作支援

GIGAスクールサポーター

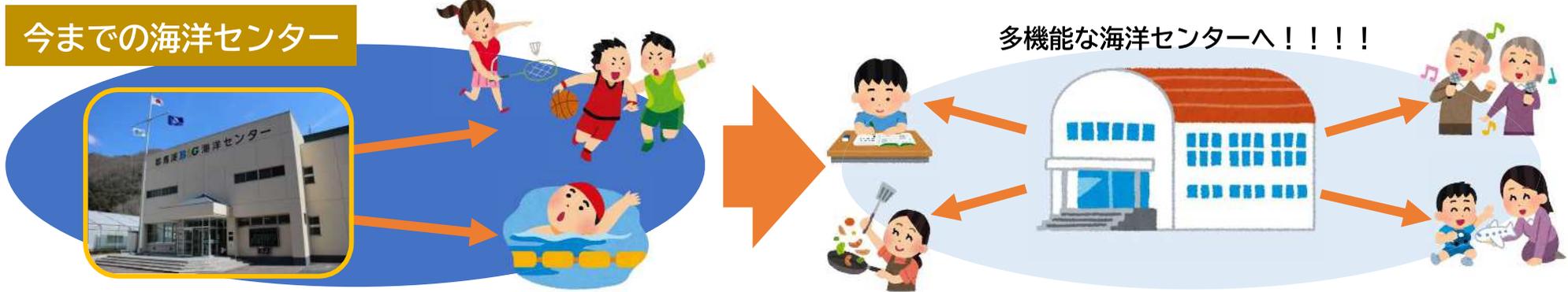
- ・ICT環境調査・整備
- ・iPad活用支援
- ・iPad故障対応
- ・iPad設定支援
- ・管理支援(アカウント管理)
- ・アプリケーション導入・管理
- ・活用マニュアル作成
- ・セキュリティ対策支援
- ・障害等対応支援
- ・校務支援ソフトヘルプ業務
- ・オンライン学習支援 等

外部人材の活用

- 《 iPad利活用支援委託 》
- ・教職員研修
 - ・ギガサポ研修
 - ・研修動画の作成・提供

- 《 ICTコンサル委託 》
- ・調達計画支援
 - ・ネットワーク管理
 - ・高度な障害支援

今までの海洋センター



多機能な海洋センターへ！！！！

地域コミュニティの再生に関するモデル事業

海洋センターの現状 全国465施設の多くが過疎地域（みなし過疎含む）に存在し、利用者の減少と地域の衰退が課題となっている。

【目的】 地域外から若者を呼び込み、滞在により、地域に交流とふれあいを創出する！



～若者と地域との交流で、過疎地域ににぎわいを！～

これまででは……

【耶馬溪アクアパーク（耶馬溪ダム）】
県内外の大学生が水上スキーの合宿・大会に訪れるが、市街地の宿泊施設を利用している。



年間
約5000名



耶馬溪に
滞在しない

【耶馬溪溪谷・サイクリスト】
耶馬溪の観光地として、溪谷散策やサイクリングロードがある。訪れるものの短時間の滞在である。



年間
自転車貸出
約6000台

そこで！！

B&G財団と中津市で
事業連携協定を締結



宿泊機能を付加



宿泊室・食堂
など

耶馬溪に滞在！

宿泊ターゲット

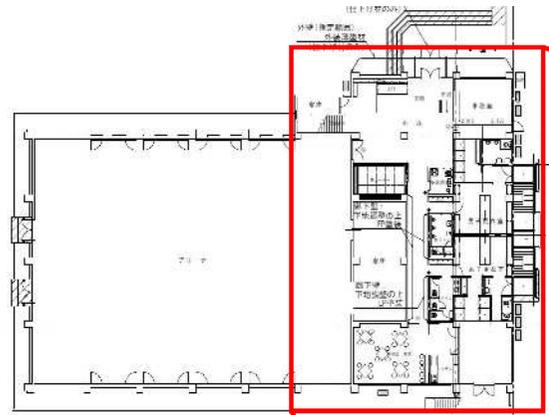
- 【大学生】
低価格で宿泊でき、
様々な活動に
参加できる！
- 【小・中学生・親子】
地域住民の交流拠点が
できる
- 【サイクリスト等】
今まで素通りだった観
光客の休憩所等に利用
できる

さまざまな交流が
生まれる！

滞在者が増加することで……

| | |
|------------------------------|------------------------------|
| ★異世代交流 大学生+小・中学生=学習・スポーツ等 | ★地域への愛着 市内小学校=教育キャンプ・宿泊体験 |
| ★高齢者の生きがい 大学生+地域住民=地域行事等 | ★経済活動 地元食堂等=宿泊者への食事等 |
| ★市内親子 親子キャンプツアー | |

改修箇所(1階)



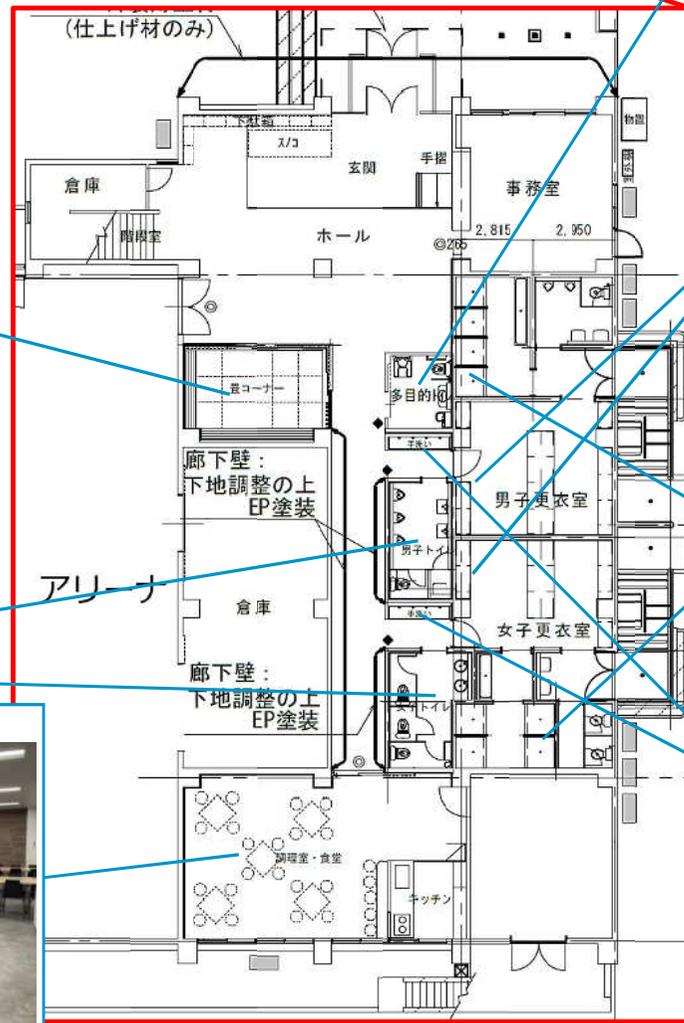
ミーティングルーム



トイレ



食堂・調理室



多目的トイレ



ランドリー



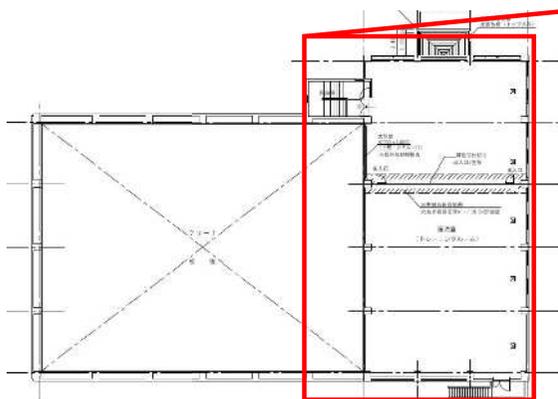
シャワールーム



洗面台



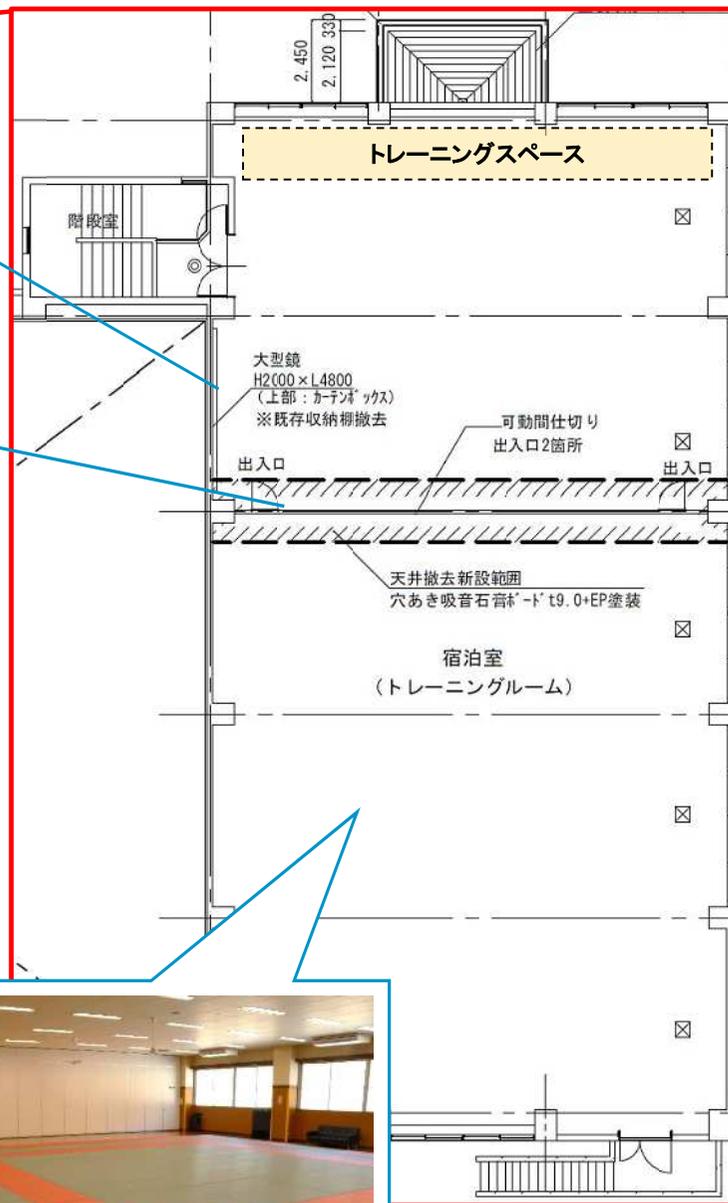
改修箇所(2階)



鏡



可動間仕切り



宿泊イメージ



改修後の実施事業

①『2022 B&GプールでSUP体験会』



人気上昇中のマリンスポーツ「SUP」をプールで安全・手軽に体験できるイベントを実施した。

ボードの乗り降り、進み方、ターンなどをB&G指導員がレクチャー。

水辺の安全教室では、福岡大学や慶応義塾大学学生、耶馬溪ジュニアボランティアリーダーがペットボトル浮遊や背浮きの実演を行った。

体験会後半には、耶馬溪アクアパークへ移動し広い湖面でのSUPを楽しんだ。

②『チャレンジ！The耶馬三城～一ツ戸城編～』



軍師黒田官兵衛ゆかりの城跡を観光するイベント。

B&G海洋センター「やばすぽ」をスタート・ゴールとして、一ツ戸城址までの往復14kmの道のりのウォーキングを楽しんだ。

地元住民や福岡大学の学生が、新設された、「やばすぽ」の調理室を活用し、参加者にだんご汁やサツマイモ餅を振舞った。



③『B&Gプレオープンイベント「やばすぽ」で通学合宿』



「やばすぽ」での宿泊イベント第1弾として、耶馬溪町内3つの小学校児童を対象とした、2泊3日の通学合宿を開催。子どもたちは施設内で他校の児童と交流しながら食事や手話学習、ゲームを楽しみ、朝は「やばすぽ」からそれぞれの学校へ登校した。



④『B&Gプレオープンイベント「やばすぽ」で宿泊体験』

友好都市である太宰府市と中津市の職員とその家族を対象として、1泊2日で「やばすぽ」にモニターとして宿泊体験を実施予定。(2月10日(土)～2月11日(日))

⑤『3世代交流軽スポーツ大会』

耶馬溪町内5地区の公民館長のご協力のもと、各地区で三世代でチームを編成してもらい、水上スキー合宿中の大学生と一緒に『やばすぽ』でスポーツ交流事業を実施予定。



⑥『B & G親と子のふれあいキャンプ』

福岡・佐賀・長崎・大分の北九州ブロック管内のB & G海洋センター所在地住民を対象とした、1泊2日の親子キャンプを実施予定。イベントでは、サイクリングや湖面遊覧など耶馬溪地域の魅力を堪能してもらう予定。(2月25日(土)～2月26日(日))